

秋田県知事

鈴木健太様

要望書

秋田港クルーズ列車の
路線維持に向けた関係機関
への働きかけについて

2025年9月19日

秋田商工会議所 会頭 辻良之

秋田港振興会 会長 辻良之

秋田港クルーズ列車の路線維持に向けた 関係機関への働きかけについて

平素、県政の発展にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

さて、秋田県におかれましては、多年にわたりクルーズ船の積極的な誘致に取り組んでこられた結果、今年は秋田港への寄港が過去最多の 35 隻を予定しており、そのご尽力と成果に深く敬意を表します。

とりわけ、クルーズ船の積極的な誘致のため懸案であった二次交通対策として、全国的にも稀有なクルーズ列車を本港地区賑わい拠点において導入し、また、当該工区の再編整備も進められていることは、本県の観光振興、ひいては地域経済活性化に資する極めて重要な施策と認識しております。

しかしながら、去る 2 月の県議会において、「クルーズ列車の 2025 年度末での廃止」が明らかにされ、これに伴い日本貨物鉄道(株)では、近く「秋田港線」の廃止申請を提出すると伺っており、存続を願う我々としては大変憂慮しているところであります。

存続に伴い関係機関に様々な負担が生じることは理解しておりますが、一方、一旦廃止となれば、二度と軌道の復活は望めないことから、あらゆる継続の可能性を再検討したうえで、慎重な判断が必要と認識しております。

県においては、クルーズ船の二次交通検討WGを設置し、クルーズ列車廃止後の議論を進めておりますが、タクシー、バスともにドライバー不足の中、具体的な対策に目途が立っていない状況にあり、この課題を解決しないままでのクルーズ列車の廃止は、これまでの寄港拡大に向けた努力に水を差すものであり、時期尚早であります。

「秋田港線」は、単にクルーズ列車としてのみならず、一般利用者の観光乗車、男鹿・県北・県南など広域的な観光振興の観点からも新たなコンテンツとして有益な利用が期待されます。

我々は、先に、「秋田港クルーズ列車存続に向けた国への支援策要望」「秋田港クルーズ列車の運行継続に向けた再検討」をお願いしたところですが、「秋田港線」の路線廃止申請が迫っていることから、まずは、日本貨物鉄道(株)に対し、路線廃止申請を猶予していただくよう県から働きかけていただくとともに、今後の秋田港線の運営と利活用に向けた関係機関の協議の場を設置していただきますよう、早急なご対応をお願いいたします。